



case 06

製造業

大日本印刷株式会社

来る介護時代に備え、
今から働き方の変革を

介護関連について、対象となる従業員のニーズを把握するため、2012年春に社内でセミナーを実施し約400名が参加。参加者からは、セミナーの受講は自分一人で行う情報収集よりもずっと効率的であるとの声が届いています。また、40代以上の全従業員に介護関連のアンケートを実施し調査を行うなど、積極的に介護に関するニーズの調査を行うとともに制度の周知にも取り組んでいます。これらの活動を通し、「働き方の変革」を推進していきます。

企業プロフィール

創 業：1876年
本社所在地：東京都新宿区
事業内容：製造業（出版印刷、商業印刷）
従業員数：11,016名（うち女性1,732名）

育児支援制度の次は介護制度と、介護制度の
充実に着手

当社が介護制度を見直している背景としては、人事制度、福利厚生施策など全般的に見直したところ、今後は重要課題として介護に取り組む方針を2010年に決定し、2011年から施策の充実に着手しました。現在、介護休業と介護短時間勤務は、対象家族1名につき通算して366日に達するまで取得可能、介護休暇は法定通り要介護者1名につき年間5日（要介護者が2名以上の場合は10日）取得可能、在宅勤務制度、過去に失効した有給休暇を30日まで使用できる「ライフサポート特別休暇」などの制度があります。その他、居住地域におけるヘルパー関連の相談や介護、健康についても相談できる電話相談サービスを設置しています。介護休業の利用者については数年前に6名、一昨年は2名、去年の取得者はいませんでした。介護短時間勤務については2年前に1名適用しました。

特徴的な制度と取組み

- 介護休業と介護短時間勤務は、対象家族1名につき通算して366日に達するまで取得可能。
- 過去に失効した有給休暇を30日まで使用できる「ライフサポート特別休暇」などの制度。
- 介護セミナーの実施、介護関連アンケートの実施。



労務部
本田 有香

セミナー実施により会社として介護と仕事の
両立支援の方針を明確にし、その上で従業員の
ニーズを把握

このように介護関連の施策を充実させていくことになりましたが、実際に介護で悩んでいる従業員について、そのニーズを把握することは困難でした。そこで、ニーズを把握するため、外部から講師を招いて介護セミナーを実施しました。当社では従来から53歳以上の従業員を対象にした「セカンドライフ準備ガイダンス」を行っていましたが、出席者より「介護制度については知らない」という声を聞いていたので、セミナーでは介護と仕事の両立支援関連のメッセージを出し、多くの人に関心をもってもらい、介護のニーズについても話し合える環境をつくることで、介護関連の従業員のニーズを探ることを目的としました。セミナーには計400名が参加し、40代の従業員が出席者の4割を占

めました。参加者に対してアンケートを実施しましたが、9割が満足または大変満足という結果でした。講師からは「介護は他人事ではない、今から働き方を見直していこう」というメッセージがありましたが、今後日本が少子高齢社会を迎えるにあたり「働き方の変革」は重要であると、会社として強く感じています。

今後は「40歳向けセルフマネジメントセミナー」を行い、働き方やマネープランについて情報提供を行う予定ですが、40歳は介護保険法が適用となる年齢なので、介護についても触れる予定です。また、介護に関する従業員ニーズをさらに探るため、40歳以上の従業員を対象として介護関連のアンケートを実施し、8,000通の回答を得たので、今後回答の分析を行っていきます。介護関連制度についてどれくらい知っているか、制度で足りないものは何か、セミナーは実施した方がいいかなどを聞いて今後もニーズを探っていきたいと考えています。

従業員の声

介護セミナーに参加し、働き方の変革の必要性を実感



市谷事業部
三好 晶子

自分で介護関連の情報を収集するのは至難の業です。2時間のセミナーに出席して満遍なく介護情報を得られるのは大変効率が良いと感じました。介護セミナーは、特に管理職は全員出席すべきだと感じました。育児ははっきり目に見えます。しかし介護は職場でも言い出しづらい雰囲気があるせいか、上長が認識するのも難しく、最終的には、誰がいつまで通常通り働けるのか把握できないという問題に結びついていくからです。今後、日本の人口の1/4が介護に従事せざるを得なくなり労働力が減っていくと言われていいる中で、男性も女性も介護のために早く帰らないといけなくなる。今のうちから、残業を減らして効率よく働く習慣を身に付けておかななくてはならないと改めて感じました。私自身もセミナー出席後、メリハリをつけた働き方を促進しようとしています。自分も周囲もできるだけ早く帰る、限られた人数の中で打ち合わせをしながらやっていくなど、雰囲気づくりを率先して行い後輩も指導するよう努めています。メリハリのある働き方については上長や先輩が周囲に働き掛けていくことが重要であると考えています。



hontoビジネス本部
斎藤 充春

母親が交通事故に遭い1カ月入院したことで、介護はいつ突然やってくるかわからないと実感し、心の準備をする必要があると感じてセミナーに参加しました。また、介護について一般的なことは知っていましたが、会社としてどういう制度があるのか詳しく知りたいと思っていました。育児に従事するのは20代から30代の人が主ですが、介護は40代、50代の管理職世代が主となり、しかもある日突然やってくるので、セミナー参加後は働き方を変えないといけなと感じました。今までのように夜遅くまで仕事をするのではなく、メリハリをつけることが必要です。私は以前から早朝に出勤することはありましたが、セミナー受講後は特に意識して早朝出勤を心がけるようにし、より効率的に仕事をするようになりました。働き方の変革は自分ひとりの努力では思うようにいかないことも多々ありますが、働き方を変えていかないと自分のためにならないし、また会社の発展にもつながらないと実感しました。